

# 縁側のあるまち

パブリックスペースをきっかけにしたまちづくり



# まちを歩くとき、 どれだけの人に 挨拶ができますか？

「こんにちは、今日も良い天気だね。」

「いってきます！」

「最近こんなことがあってさ、」

「おばあちゃん、手伝うよ！」

そんな会話が溢れるまちをつくりたいと思いませんか。



## 公共空間をきっかけ にしたまちづくり 「縁側のあるまち」

それは、公園や道路、建物の一角といった場所を、「縁側」のような日常生活の中で人と人が自然と交流するきっかけを生み出す空間として広げていこうというものです。

まちの様々な場所に「縁側」が広がっていくことで、まちづくりが自分事になり、魅力的なまちがつくられていくことを目指します。まちへの関心が深まれば深まるほど、そのまちを美しく、快適にしたいと感じるでしょう。



「縁側」は、日本の文化的要素のひとつです。家と外部との間にある曖昧で微妙なスペースで、近所の人や通りすがりの人が気軽に立ち寄り、自由なコミュニケーションが生まれてきました。一杯のお茶とともに会話が交わされ、遠くを眺めながら心安らぐ時間を過ごすことができます。

## 「縁側のあるまち」 によって目指す姿。

このありのままの自由さと温かさが「縁側」の本質です。この「縁側」のような場所・空間を増やし、台東区のまちづくりに活かします。

## 台東区で 「縁側のあるまち」 を目指す理由。

台東区は、関東大震災後の復興事業により、道路や公園などのまちの基盤が整備されました。近年はマンション等の増加によって区の人口も増加しており、現在では20万人を超えています。

しかし、現代の多様化している生活の中で、隣人とのつながりや地域のコミュニティは見えにくくなりました。まちの魅力は、建物や施設だけではなく、そこで生活する人々とのつながりにより一層高まります。それは暮らしやすさや安心感、まちへの愛着を生み出す源となります。

子供たちが声高に笑い合っている風景、ティータイムにお気に入りの本を楽しむ大人、公園のベンチで一息ついている親子、突然の出会いに笑顔を交わす人々。

このような日常的なふれあいが、「縁側」により生まれ、その愛着により、台東区をさらに魅力的で価値のあるまちに変えていきます。

## 台東区には たくさんの 「縁側」があります。

次のページからは「縁側」を実践している人たちを紹介します。

# Case 1.

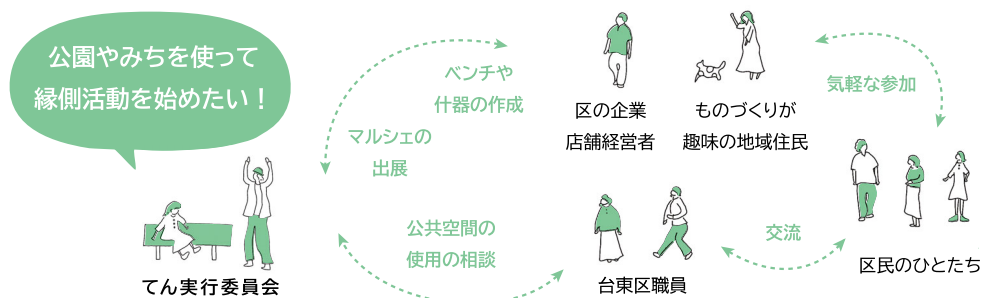
## 社会実験「天」

### 公共空間を活用した 新たなまちづくり

場所：台東区内の公園や商店街  
台東区民がつながる、地域でつながるコミュニティ&イベントとして、様々な出店者が集うマルシェ。ミニライブを行う「ヒト坪ステージ」商店街に用意した「てんコタツ」など、人々が集まる企画も行う。  
毎月第1土曜日（真夏・真冬は除く）御徒町公園・竹町公園・柳北公園などの区立公園で開催。



### typology



### interview

まちの公共空間で  
顔の見える関係作りを  
行っています！



台東区在住歴 14年  
「てん実行委員会」  
一般社団法人  
ヒトイクラボ代表理事  
北 直旺哉 さん

イベントを開催するときは、自分事にしてもらうことが大事です。当日の朝、みんなでマルシェの什器を組み立てます。汗を流しながらみんなで1日を過ごして、撤収が終わる頃には、みんなでバス旅行にでも行ったような強い絆が生まれています。当日場所が用意されていて、そこに出して帰るだけではない、顔の見える関係づくりを意識しています。「天」では区内のブランドショップや飲食店などの店舗・企業が出店しています。その他にも、遠いところに出店しに行くのが難しいママさんたちなどの地域の方のチャレンジの場になったらいいなと思っています。また、出店店舗だけではなく、ステージなどの人が集まる企画も用意していて、そこにいるだけでも居心地がよい場作りを行っています。新しく移り住んできた人はまちの古くからの繋がりに入っていきづらいですね。「天」は新しいコミュニティの場として協力できる存在になれたらいいなと思っています。「天」の活動には台東区職員の方々積極的に関わってくださっていて、当日も設営等のお手伝いをしに来てくれます。区役所で働いている人の顔が見える関係は大切ですね。僕は14年ほど前に大阪から台東区に移り住んで来ました。このまちは自分の居場所を作ってもらえた場所だから、恩返しのような気持ちで活動を行っています。

## Case 2.

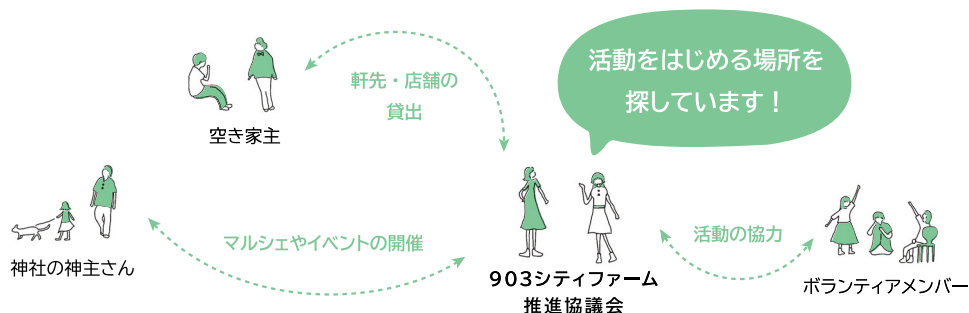
### たごころ 「田心カフェ」

#### 商店街の人情が 活動をつなぐ

場所：西浅草 かつば橋本通り  
「農と食でローカルとつながる、  
地域がつながる」をスローガンに  
掲げたまちづくりを行う。拠点の  
コミュニティカフェ「田心カフェ」  
を中心に、秋葉神社での「マル  
シェ」「浅草田んぼプロジェクト」  
など様々な活動を行っている。



#### typology



#### interview

野菜販売を行う  
軒先を探すことから  
活動が始まりました。



台東区在住歴 8年  
903シティファーム推進協議会 委員長  
矢尾板 初美 さん  
広報委員  
山口 千明 さん

「楽しく働く」の原点が農業にあるんじゃないかという思いから、以前より畑活動を行って  
いました。「自9自3」という、自ら3割を生み出して、90分圏内の繋がりで巡る暮らしを  
めざしています。

このまちで暮らしているうちに、安心安全なお野菜を地域に循環させたいと思いました。  
そこで、ここから近くの飲食店の軒先を借りて、月に1回お野菜の販売を始め  
ました。軒先販売の次は、マルシェを企画しました。もう少し広いところで地域の方が集え  
る場を探そうと、自転車であちを走り回って、秋葉神社さんを見つけました。飛び込みで  
マルシェの相談をしたのですが、「地域のコミュニティの場となってくれたら」という神社  
さんの思いもあって、快く貸していただけることになりました。現在は、秋葉神社さんで「浅  
草田んぼプロジェクト」を行っていて、地域の方と稲やお野菜を育てています。

田心カフェは、お野菜を売ることよりも、人と人のつながりを作りたいという気持ちで  
やっています。また、地域の方々と何気なく頼り合える関係性がつかれるといいなと  
思います。「あのおばあちゃん来なくなったけど大丈夫かな。」「少し店空けるから店番しと  
いて」なんて会話ができるといいですね。

## Case 3.

### 「貸はらっぱ音地」<sup>おんぢ</sup>

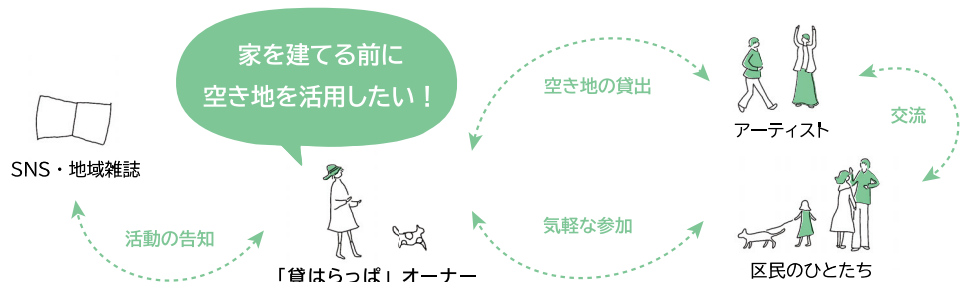
#### ひとりでできる ミニ空き地活用

場所：谷中七丁目

谷中のまちで「はらっぱ」を貸している。まちと一体の空間で、まちに溢れる空き地を活用する実験スペースでもある。新しい表現の場として、利用者の自由な活用を推進している。



typology



interview

自分の土地で  
ちいさな縁側を気軽に  
始めてみませんか？



台東区在住歴 27年  
貸はらっぱ音地  
オーナー  
牧住 敏幸 さん

普段は会社員をしています。好きだからという理由で27年ほど前に谷中に引っ越してきました。ある日、谷中の土地が売り出されているのを見つけて、すぐを買いました。元々は家を建てるつもりだったのですが、建てずにまちと関わることはできないかと思い、18年ほど前に「貸はらっぱ」をはじめました。はらっぱの使い方は自由です。若いアーティストの展示やマルシェ、工作教室など、本当にいろんな人が、いろんな活動を行っています。平日に働いていると全然地域と関われないのですが、谷中にいる人はみんな楽しそうなので仲間に入りたいなと思い、ただの空き地に屋号をつけてみました。このように、家を建てる前の空き地の状態でも、まちと関わったり、楽しめたりすることができるんですね。住み開きという言葉がありますが、この場合は少し違って、家を開かなくても土地が開いているから自分のプライベートな暮らしとは別の縁側をもつことができるんです。普段ギャラリーに行かないような人たちも、通りがかりに「貸はらっぱ」に展示してある作品を見て「なんだろう」「面白いね」って足を止めて入ってきてくれます。これは「はらっぱ」で活動しているからこそこの出会いですね。まちに面している部分は、人の心を偶然に動かす力があるんですよ。

## Case 4.

### 「BASE」

仕事場にまちとつながる  
1階を構える

場所：浅草橋三丁目  
2つの設計事務所のシェアオフィス。1階と2階は、不定期にカフェ、ギャラリー、ワークショップ、地域イベントなどのシェアスペースとしてまちに開かれている。



#### typology



#### interview

働きながら、地域の人と  
関わることの楽しさを感じ  
ています！



台東区勤務歴 1年  
畝森泰行建築設計事務所 所員  
小野 誠治 さん  
teco 所員  
福原 直也 さん

私たちの事務所は5階建てで、1フロアずつ各事務所の占有エリアがあります。**1階はオープンで、扉を全部開ければまちと地続きになります。**2階は既存のサッシを全部取り払って、外部空間にしました。

私たちは普段、建築の設計をする時に「機能を決めずにいろんな人が立ち寄れる場所を作りましょう」などの提案をするんですけど、実際、運営面でのハードルなどがあると思います。**自分たちが実感を持って、縁側的な場所を実践していくことが大切だ**と思っています。

BASEでは定期的に展覧会などのイベントを行っています。毎年恒例のお餅つきでは、近所の子供や婦人会の皆様が来てくださって賑わいました。町内会のメンバーは高齢化が進んでいるので、大きな行事は体力的に難しいという話を聞きます。**半公共的なコミュニティの場所**としても、BASEが活用できたらいいなと思っています。

浅草橋はものづくりが身近にある風景があって、仕事場所と居住環境が混ざってできているまちの雰囲気があります。まちとつながる**1階を縁側として構える場所が点々と増えて、**まち全体が回遊性を持ちながらつながっていくといいですね。

# あなたも縁側に来てみませんか そして、縁側をつくってみませんか

台東区はこれからも「縁側のあるまち」を目指して取り組みを進めていきます。このコンセプトブックを手にしたあなたが縁側活動を気軽にはじめられるように、環境づくりを行います。



## これからの台東区の取り組み

1

### まちづくりのコンセプトを知ってもらう

- ▶ 「縁側のあるまち」コンセプトブック作成
- ▶ コンセプトブックを活用した周知活動



2

### コンセプトに沿った具体的な活動を見せる、拡げる

- ▶ パブリックスペースの社会実験の実施



3

### まちづくり活動をしやすいための環境づくりを進める

- ▶ まちづくりに関わる仕組みやルールづくり
- ▶ まちづくり活動の支援制度の拡充
- ▶ パブリックスペースの活用ルールの検討

## 取り組み事例

台東区都市づくり部地域整備第一課

### 上野の社会実験



JR 上野駅直結のパンダ橋で「E!とマチとエキがつながるのんびり空間」を企画  
パンダパシビクニック 2024Autumn(2024.10)  
主催：JR 東日本  
共催：台東区・JR 東日本クロスステーション

台東区都市づくり部地域整備第二課

### 北部地域の リノベーションまちづくり



空き家リノベーションを用いて「人々が共生し住み働き続ける便利なまち」を目指す

台東区都市づくり部都市計画課

### 御徒町台東中学校 吹奏楽部ミニコンサート (御徒町公園)



公園や道路などの公共空間での地域コミュニティのきっかけづくりを促した、台東区ならではの人の顔が見えるまちづくりに取り組んでいます

### 区道の活用 (ルートボックス)



※パブリックスペース：公園等の公共空間のほか、民間空地、空き家・空き店舗、地域資源等の都市の中の空間

## 台東区

### 都市づくり部都市計画課

発行日：令和7年3月

発行：台東区

URL：

<https://www.city.taito.lg.jp/kenchiku/koumin/index.html>



台東区 公民連携

## 編集後記 たいとうラボメンバー



高野 洋平

縁側のような空間には様々な可能性があり、まちで暮らすことを豊かにするものだと思って感じました！



森田 祥子

上京以来ずっと上野に暮らしています。まだ知らない豊かな文化や人がつながる縁を紡いでいきたいです。



畝森 泰行

このハンドブックで紹介するような「縁側」が様々な生まれ、歩いて楽しいまちになると良いなと思います。



金野 千恵

1階を開いて繋がるたびにまちに魅了されてきました。今回、さらにまちの可能性を感じています！  
写真：yasuyukitakagi



工藤 浩平

浅草橋在住17年目ですが、今回自分の知らない様々な活動を知ることができました。今度参加してみます！



内山 媛理

「縁側をはじめたい！」と思っている人たちの背中を押してあげることができたら嬉しいです。

たいとうラボは、台東区に事務所のある建築家たちによる、まちづくりを考える研究会です